

# 芸術祭の開催構想（案）

第5回ワーキング部会 検討資料

議題：芸術祭の開催構想（案）の策定（企画・基本方針に関する事項を決定）

# 1. 芸術祭の開催に向け決めていく事項 ※○は今回の部会で決定する項目、△はある程度決定する項目

芸術祭を開催する上で決めるべき重要な項目は多岐に渡るが、成功の鍵は初期段階での**目的とコンセプトの明確化**、そして**運営体制の確立**にある。

## (1) 企画・基本方針に関する事項（最も基本的で重要な事項）

	項目	内容	八尾市の場合
○	目的・趣旨	なぜ芸術祭を開催するのか (例：地域活性化、芸術文化の振興、国際交流など)	
○	テーマ・コンセプト	芸術祭全体のコンセプトや方向性を示すテーマを設定 (例：「海の復権」、「ソーシャルインパクト」など) テーマの傾向としては、社会課題とアートを結び付けるもの、地域性の掘り下げ、未来への展望などが挙げられるが、開催場所により、多岐に渡っている。	
○	ターゲット	誰に向けて開催するのかを明確に絞り込む (例：一般市民、国内外の観光客、特定の芸術分野のファンなど)	
○	芸術の種類	舞台芸術、現代アート、メディア芸術など、どの分野を中心に扱うかを決定	
△	開催規模・達成したい目標	国内外からの参加規模（国際芸術祭か地域密着型か） 達成したい具体的な目標（KPI）（例：来場者数、経済効果）	
○	イベント名	芸術祭の顔となる正式名称を決定	

## (2) 運営体制・予算に関する事項（企画を実現するための基盤作り）

	項目	内容	八尾市の場合
△	実施主体・運営体制	誰が主催し、誰が運営の責任を負うのか（実行委員会形式など）を明確化 意思決定プロセスもここで決定	
	予算と資金調達	全体の予算規模を決定し、行政からの補助金（負担金）、協賛金、チケット収入などの財源を確保	
○	芸術監督・キュレーターの選任	展示やプログラムの芸術的な側面を統括する人物を決定	
	役割分担と責任の所在	事務局内での具体的な業務分担（広報、会場設営、経理など）を明確化	
	ボランティアスタッフの募集・研修	多くのサポートスタッフ（運営サポート、案内所機能など）の協力が不可欠	

### (3) 開催計画に関する事項（具体的な実行スケジュールに関わる事項）

項目	内容	八尾市の場合
△ 開催時期・期間	いつ、どれくらいの期間、開催するかを決定 (例：数日間、数ヶ月間、春秋のシーズン制など)	
開催場所	メイン会場や連携会場となる施設、公園、町工場、神社仏閣などを決定 来場者のアクセス方法も考慮	
プログラム内容	具体的な展示、公演、ワークショップなどのコンテンツを企画 出演者や作家を選定	
参加アーティスト・作品選定	公募の有無や選考基準を決定、参加アーティストを選定 作品プランや展示内容の方向性を決定	
広報戦略	どのようにイベントを告知し、集客するかを計画 SNSの活用なども含む	

## 2. 開催の目的・趣旨（前回議論の整理）

前回の部会では、以下の方向性が確認された。

### ■ 日常の中の「余白」と「出会い」

日々の生活にアートの「余白」（心のゆとり、創造性の入り込む隙間、場所の変容）を創り、新しい自分や価値観に出会うきっかけを提供する。

- ▷ 「余白」は忙しい日常に”ふと息をつけるようなゆとり”や、”非日常”を取り入れることで生まれる新しい考えや感性の”隙間”と捉えられている。
- ▷ 本やデザインの「行間」や「空間」の余白のように、想像力を楽しむ要素。

### ■ 市民が主役（自分事化）

市外からの来場者も歓迎しつつ、まずは八尾に住む・働く人々が主体となり、愛着を持てる内容をめざす。

- ▷ まず市民が熱狂し、その熱に惹かれて市外の人々がやってくる「内から外へ」の流れを意識。

### ■ ごちゃまぜの交流

世代や国籍を越えた多様な人々が交わり、八尾の魅力を再発見・発信する。

- ▷ 「異質なもの」との接触を通じて化学反応を楽しむ。
- ▷ 内なる国際化を意識する。
- ▷ 芸術文化をハブに、福祉・教育・産業など多様な分野との連携をめざす。

### 3. イベント名称およびキャッチコピーの検討

名称から「国際」を外す方向で調整し、より親しみやすく、かつ「違和感（フック）」のある言葉を選定。

#### （1）イベント名

- ・中河内（合同）芸術祭
- ・八尾芸術祭
- ・やおうえるかむ芸術祭
- ・（やお）まちかど芸術祭

#### 【補足の議論ポイント】

- ・名称に「2028」をつけるかつけないか。
- ・つけるなら、名称の前につけるか、末尾につけるか。

## (2) キャッチコピー

### 【委員より提出されたキャッチコピー案の整理】

提出された案を、議論のあった「八尾らしさ」や「アプローチの方向性」で分類。

カテゴリー	キャッチコピー案
親しみ・日常系	<ul style="list-style-type: none"><li>・エエやん！ごちゃまぜ八尾のまち</li><li>・あんじょう エエまち 八尾のまち</li><li>・ほんにええあんばい八尾。</li><li>・まあ、八尾でええやん。</li><li>・みんなで盛り上げよう！人情味あふれる八尾のまち！</li></ul>
八尾のアイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"><li>・枝豆と、若ごぼうと、ついでに芸術と</li><li>・モノづくりの街で、ココロ創りの芸術</li><li>・ええあんばいでもちゃんと八尾。</li></ul>
余白・芸術性重視	<ul style="list-style-type: none"><li>・八尾の地図に、芸術の余白</li><li>・そこかしこ、芸術</li></ul>
インパクト・違和感	<ul style="list-style-type: none"><li>・存外八尾w</li><li>・八尾覚醒。アートは止まらない。</li><li>・隙間界のエース。</li><li>・大阪の隙間、でも本命。</li></ul>

委員より「使用期間によるアプローチの違い」について意見が出ている。

### ■長期的コピー（恒久的な理念、タグライン）

芸術祭の理念、コンセプトを短くわかりやすく語源化したコピー。テーマに近い。

芸術祭の目的を含むもので、ロゴと一緒に使われることが多い。

### ■短期的コピー（回ごと、限定的）

第1回（2028年度）の「種まき」としての勢いや、その時々企画に特化したもの。

時期やその時の社会的情勢（トレンド）、その時のテーマに沿って、よりターゲットの心をつかむコピー。

⇒**検討事項**： 前頁の案の中から「核となる名称・理念」と「今回の広報用コピー」をどう分けるか。

タグライン（Tagline）は、企業やブランドの理念、存在意義、提供価値を10～15文字程度の短いフレーズで表現したもの。ロゴのそばに配置し、ブランドの記憶定着や差別化を目的とした長期的な「約束」である。短期的な広告のキャッチコピーとは異なり、一貫したイメージを伝える役割を果たす。

◆やおうえるかむコモンズのスローガンは芸術祭のタグラインとなりうるか。

## アートをまたぐ、まちをつむぐ

### ■ 場所の敷居をまたぐ

- ▷美術館やギャラリーだけではない、公園、商店街、町工場など、日常の身近な場所でアートに出会える。
- ▷「やおうえるかむコモンズ」の具現化。

### ■ ジャンルの境界をまたぐ

- ▷伝統と現代、異なる文化の融合。
- ▷絵画、彫刻だけでなく、音楽、ダンス、演劇、デジタルアートなど多様な表現を包摂する。

### ■ 人々の心をまたぐ

- ▷専門家だけでなく、市民誰もが鑑賞者、そして表現者となれる機会の創出。
- ▷世代や背景、国籍を超えた交流の促進。

### ■ 地域コミュニティをつむぐ

- ▷アート活動を通じて、住民同士、地域団体、事業者との新たなつながりを生み出す。
- ▷孤立を防ぎ、共助の精神を育む。

### ■ 八尾の魅力をつむぐ

- ▷歴史、文化、自然など八尾市が持つ多様な魅力をアートで再発見・再発信。
- ▷地域ブランドの向上と活性化。

### ■ 未来へ希望をつむぐ

- ▷子どもたちの感性を育み、未来の文化芸術活動の担い手を育成。
- ▷持続可能な芸術文化のまちづくりへの貢献。

⇒ これらは特定の年に限定されるものではなく、**芸術祭がめざす長期的な目標や理念を端的に表している。**

# アートをまたぐ、まちをつむぐ

- 普遍性:** 一時的な流行に左右されず、長期にわたって価値を保ち続ける言葉。
- 独自性:** 八尾市独自の文化的コモンズ構想「やおうえるかむコモンズ」の活動理念を明確に表現。
- 継続性:** 初めての芸術祭から、将来にわたる活動の指針となる。
- 行動喚起:** アートを通じて「まちづくり」に参加するという能動的な行動を促す。

## ストーリー性

- ▷「やおうえるかむコモンズ」という、身近な場所で誰もがアートに触れる「文化的コモンズ」を推進するという目的と、「アートをまたぐ、まちをつむぐ」が非常に強く連動している。
- ▷アートが媒介となり、地域に開かれた「コモンズ」を形成し、それが最終的に「まちをつむぐ」ことにつながるという、一貫したストーリーが見える。

# アートをまたぐ、まちをつむぐ

芸術祭の単なるキャッチコピーではなく、

「やおうえるかむコモンズ」プロジェクト全体の**ブランドメッセージ**であり、

市民の皆様、アーティスト、地域の皆様と共に創り上げる**共通のビジョン**である。

また、これ一本で、イベントの目的、方向性、そして将来へのビジョンを十分に伝えることができる。

⇒ **やおうえるかむコモンズ、そして芸術祭の哲学そのものを表す、まさに長期的なタグラインとして理想的**と言えるのではないか。

八尾市がアートを通じて、より豊かで魅力的なまちになるよう、共に「アートをまたぎ」、未来の「まちをつむいで」いきましょう。

## 4. ターゲット

「のっぺらぼう（抽象的な誰か）」ではなく、顔の見える「個」へ届ける。

カテゴリ	具体的なターゲット像
メインターゲット	八尾市民、子ども、アートに関心が薄い層（自分事化を狙う）
サブターゲット	市外からの来訪者、アーティストのファン（ファン化と再発見）
波及ターゲット	万博来場者、SNS層（新しいブランドイメージの発信）

- ・内から外へ：まず市民が熱狂し、その熱に惹かれて市外の人やってくるという流れを意識している。
- ・八尾市民を中心に、八尾に関わるすべての人が「ふと参加したくなる」芸術祭
- ・まずは市民、そこから八尾に興味を持つ人へ広がっていく芸術祭

### 【前回の議論】

- ▷ ターゲットはすべての年齢層、すべての八尾に関わる人。「排除する人は一人もない」という意識。
- ▷ 八尾市民が「自分事として」関わってもらえるような働きかけが重要。
- ▷ 地元と外部の人間がうまく具合に融合することで、内にも外にも向いたものができる。

## 5. 芸術の種類

「打ち上げ花火」で終わらせず、プロセスと質を両立させる。

### ■「場所」と「物語」を紡ぐアート（サイト・スペシフィック）

特定の場所に根ざした「サイト・スペシフィック・アート」や、アーティストが八尾市に滞在し、八尾の歴史や文化を吸い込んで制作する作品、まちかどのシャッター、公園の立体作品など、美術館を飛び出し「まちの風景に溶け込む作品」を展開。口コミを生むよう、一定期間じっくり鑑賞できる展示を主軸に据える。

### ■身体性と五感に響く「ハプニング」（パフォーマンス・食）

音楽、舞台芸術、演劇、そして八尾の伝統文化である「河内音頭」のパレードなど、「お祭りのような高揚感」を演出する。

プロのパフォーマンスに市民が制作プロセスから関わったり、食のイベントを掛け合わせたりすることで、アートに詳しくない層も自然に惹きつけ、コミュニケーションが生まれる場を創出する。

### ■本物と市民性が混ざり合う「共創アート」

第一線で活躍するプロの「本物」を誘致しつつ、在留外国人、子ども、障がいのある方など、多様な市民が主役となる表現をミックスする。

デジタルアートから伝統芸能、ストリート、さらには子どものお遊戯会まで、「八尾らしい雑多な包容力」で、あらゆる表現を「自己表現＝メディア」として可視化する。

## 6. 開催規模・エリア・時期の構想案

**開催時期の考え方：**①シーズン（春夏秋冬）ごとにエリアを分ける「分散型」案。

②特定の期間に集中させ、インパクトを重視する「集中型」案。

### ストーリー性

各地域でのプレイベント（点）を積み上げ、最終的に大きなフェス（面）へ繋げる「フィナーレ構造」の提案あり。

#### ⇒ 会場や作品の特性に合わせる

市内全域で同じことをするのではなく、会場や作品の特性に合わせて規模を最適化する。

（サイト・スペシフィック・アート、フェス型など）

▷ 初年度の成功体験を重視する点で、ある程度の集中と絞り込みが有効という意見あり。

### 地域連携

まちづくり協議会や商工会議所、地場産業（工場）、空港などを巻き込み、市民が「自分たちの祭り」として運営に関わる仕組みを検討する。

⇒ 今回の芸術祭で実現できればよいが、難しい場合も、将来的な目標とする。

## ◆会場候補（一例）

※ほかに、まちかどライブクリエイションや高校合同文化祭の会場となった場所も候補となる。

### 【エリア別】

#### ■近鉄八尾駅周辺エリア

- ・近鉄八尾駅前広場
- ・八尾市文化会館（プリズムホール）
- ・ファミリーロード（常光寺、八尾天満宮含む）
- ・山徳
- ・リノアス（TSUTAYA、みせるばやおなど）
- ・アリオ八尾

#### ■久宝寺エリア

- ・久宝寺緑地
- ・久宝寺寺内町（顕証寺、八尾市まちなみセンター含む）

#### ■恩智・高安エリア

- ・茶吉庵
- ・恩智神社
- ・しおんじやま古墳
- ・八尾廃校SATOUKURI BASE

### 【特性格】

#### ■空港

- ・八尾空港
- ・大阪府中部防災拠点

#### ■町工場

- ・平井製作所
- ・TOMOI R&D

#### ■寺社

- ・萱振御坊 恵光寺

#### ■福祉

- ・地域共生空間つながり

#### ■公共施設

- ・生涯学習センターかがやき

#### ■お風呂屋さん

- ・八尾おゆば（横の空き地含む）

## ◆八尾空港に代わる会場候補の紹介

八尾空港敷地内での大規模イベントはハードルが高い。

代替候補地として、大阪府中部防災拠点（八尾市空港1・空港隣接）を提案したい。

これまで、八尾市消防出初式や自主防災フェスタで利用している。

⇒防災のイベントなので許可されている可能性もある。今後、関係機関との調整が必要。

八尾空港から飛び立つセスナやヘリコプターを真横で見ることができる。

### 【利用できる施設】

#### ①荷捌場（体育館）

バレーボール・バドミントン・バスケットボールの練習やその他、室内においてグループや団体が自由な活動の場として利用可能。

#### ②広場部分

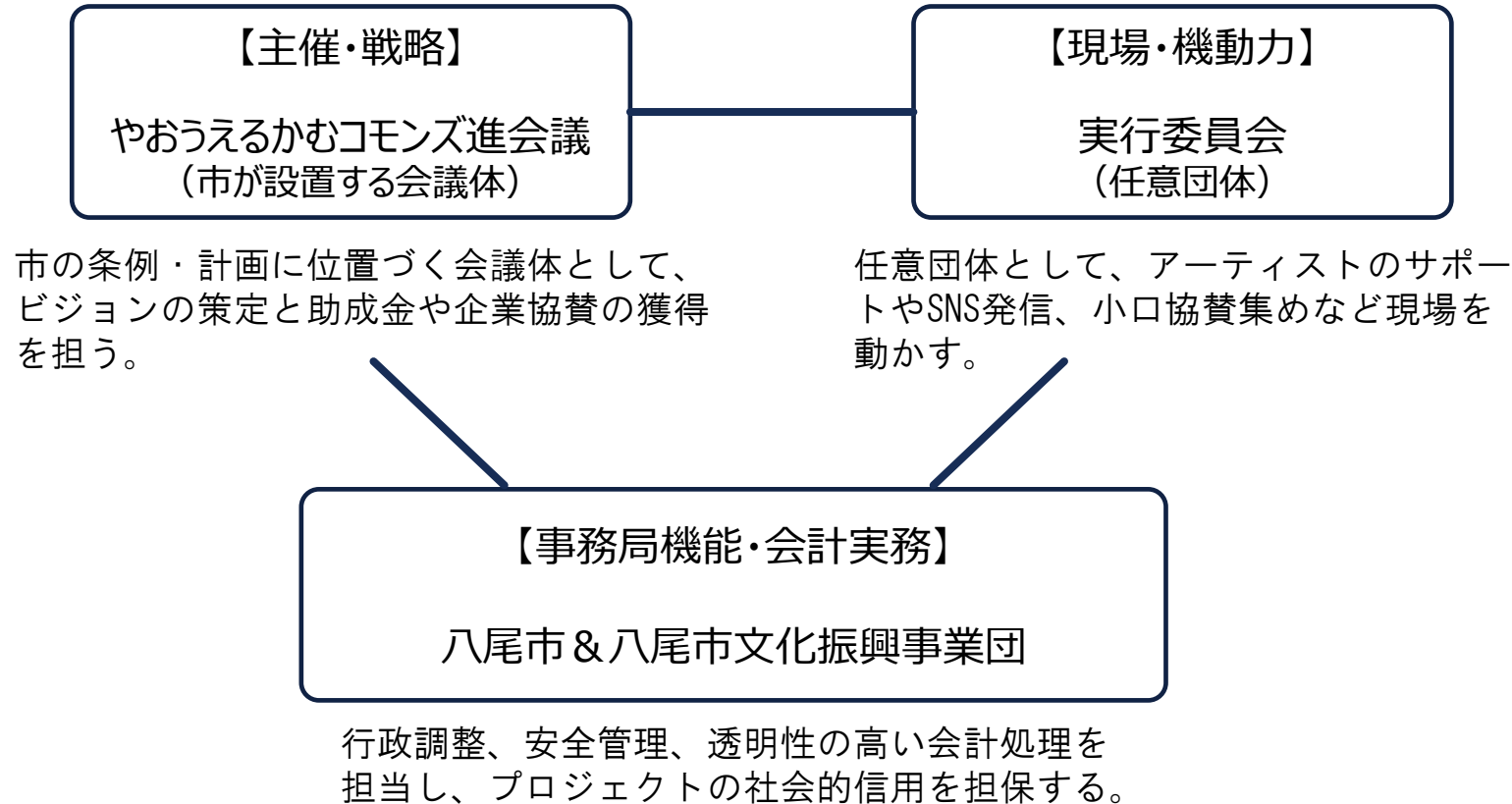
芝生広場などが利用可能。



## 7. 運営体制

※事務局機能、会計実務を担う体制については市・事業団で協議を継続。

「市民主体」を「行政の安定性」で支える、八尾独自のハイブリッド体制



## ◆芸術監督について

八尾市芸術文化振興審議会の委員であり、アートコーディネーター養成講座の講師である小國陽佑氏に、本芸術祭の芸術監督に就任いただく予定。小國さん了承済み。

### \*\*【小國陽佑氏 プロフィール】\*\*

- ・ 1984年生まれ、兵庫県出身・在住。
- ・ 主に関西を拠点にアーティストの表現活動の支援をおこなう。
- ・ ギャラリーなどのホワイトキューブとは異なる様々な場（空き家や空き地、産業遺産、一時的に使用停止している場所など）を舞台とした芸術祭やアートプロジェクト、オルタナティブスペースの運営に携わる。
- ・ アーティストの表現の可能性の拡張と共に、様々な人にとっての停留所や寄り合う場所としての可能性も思考している。
- ・ ディレクターやキュレーターとして関わった近年の芸術祭・アートプロジェクトとして、下町芸術祭（2015～）、神戸六甲ミーツ・アート（2024～）、生野ルートダルジャン芸術祭（2020～）、学園前アートフェスタ（2020～2022）などがある。



先日、芸術祭の開催候補地として、常光寺、ファミリーロード、八尾天満宮、山徳（外観のみ）、近鉄八尾駅前広場、プリズムホール、久宝寺緑地（外周のみ）、顕証寺、しおんじやま古墳、八尾空港、大阪府中部防災拠点をお國さんと一緒に見学した。小國さんからは八尾市のポテンシャルはとても高いとの言葉をいただいた。

## 8. 今後の主な検討課題

ワーキング部会での議論を経て、以下の点を今後の主な検討課題とする。

### ■ 企画の具体化と予算計画

検討中の各アイデアについて、実現可能性と費用対効果を評価し、具体的な企画内容を詳細化する。

また、これに基づき、概算予算を策定し、財源確保に向けた具体的な計画を立てる。

### ■ 具体的な達成目標の設定

「盛り上がっているという感想を持ってもらいたい」、「種をまいて育てていく」という定性的な目標はあるが、開催の成功を測る基準が未定。

### ■ 関係機関との連携強化

地域団体、学校、企業など、多岐にわたる関係機関との連携をさらに深め、実務レベルでの協力体制を構築する。

### ■ 住民参加の促進と広報戦略

より多くの住民が企画段階から参加できるような仕組みを検討し、イベントへの関心を高める効果的な広報戦略を立案する。

### ■ 持続可能な運営体制の確立

一過性で終わらせず、長期的に地域文化を醸成していくための組織体制や人材育成について検討を進める。